
秘境・ギアナ高原

御餅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

秘境・ギアナ高原

【Nコード】

N0432U

【作者名】

御餅

【あらすじ】

完全に思いつきのネタです。

（前書き）

生存報告も兼ねて。

最近ポケモン始めました。4世代で止まっています。5世代は数年後にでも。

ギアナ高地――

そこは、人の手が全く届いていない人類未開の大自然の地。

ここでは多くの珍しいポケモンたちが数多く住んでいる。そこには自然界の掟である食物連鎖――即ち弱肉強食の世界がある。

弱い者には生きる資格すら与えられない、厳しく、そして世界を成り立たせてきた唯一無二の掟が。

「ミュウ……」

幻のポケモン、ミュウが楽しそうに浮遊する。太い木を次々と通り抜ける。

楽しい事が大好きで好奇心旺盛なミュウはこの時間になると決まっていたものの場所にいくのだ。

滝が勢いよく流れおちる滝壺の近くで、多くのポケモンが一人の人間を追い回していた。

「ハアアアアアアア！」

人間は大勢のポケモンたちよりも速く疾走している。

人間が跳躍すると、ポケモンたちも跳躍する。

人間が走ると、その後を追う。

人間が岩を砕くと、ポケモンたちも岩を砕く。

人間が水に潜ると、ポケモンたちも後に続いて水に潜る。

人間が崖や滝を駆け上がると、ポケモンたちも真似して駆けあがる

うとして落っこちる。

「何をしておる！ さっさと付いてこんか！」

人間は途中でへばるポケモンたちに渴を入れた。

この人間の名前は東方不敗・マスターアジア、格闘家である。人間が入る隙もない未開のこの地で一人修行中の身である。

凶暴なポケモンも数多いこのギアナで、自分の身体一つで生活をしている。その実力、屈強なポケモンたちが赤子同然である。

現に、ポケモンたちは付いてくることすらままならないほどだ。

「よし、今日はこれから稽古に入るぞ。気合いを入れてこんか！」

「ブオッ！」

「ゴウッ！」

東方不敗が構えるのを待たずに、ゴウカザルとエンブオーが脇から襲いかかる。

ゴウカザルが俊敏さを活かして接近する。炎をまもって跳躍する。エンブオーがそれに続き、こちらも炎に纏って突進する。

そのまま東方不敗に接触する寸前で、突然ゴウカザルの身体がフワッと浮かんで、そして滝が作った湖の中に落ちた。

「フン。格闘はスピードがあればいいというものではないぞ」

吹っ飛ばされたゴウカザルを見たエンブオーが再び東方不敗に向き直り、炎を展開させて太い腕を振り上げる。

東方不敗は後ろにステップするだけかわす。空ぶったエンブオーは勢いのまま東方不敗に突進した。

すると東方不敗がエンブオーの視界から消えた。

「ブオオッ!？」

「そして、パワーがあればいい、というものでもない。戦いとは、ただいたずらに己の力量をぶつけるものにあらず」

次の瞬間、東方不敗の掌呈がエンブオーの脇腹に叩きこまれた。いや、『叩きこまれた』というより『抑えつけた』というべきか。音も立てずに攻撃し、エンブオーは気を失って倒れた。外傷も特に見当たらない。

同じく水の中に飛ばされたゴウカザルも、傷が全然見当たらない。

「なつとらん、本当になつとらんぞ、貴様ら! さあ、次々とかか
つてこんか!」

ポケモン達が気圧されてジリジリと後退する。その中で突撃を決め込んだポケモンがいた。
ボスゴドラである。ドシドシと足音を立て巨体を突進させていく。

「ほう? 今度は貴様か」

近くまで迫ったところで、大樹の様な太い腕を思いつきり振り下ろした。

「同じ手は二度も通じはせんぞ!」

先ほどと同じように東方不敗は後ろに飛んでかわす。地面にあたり揺れが生まれる。

軽やかに跳んだ東方不敗の後ろから岩石砲の構えを取るドサイドンがいた。

東方不敗がそちらに注意が向いた直後、ボスゴドラが諸刃の頭突き
の構えを取った。

「ゴドラー!!」

「ドサイー!!」

「ふむ……闇打ちにしては合格点を与えたいものだ……しかし!」

東方不敗は手ぬぐいをドサイドンに飛ばす。

「ドッ!?!」

「単に力任せでは意味がない。技を入れこまんか!」

突然飛んできた手拭いに反応できなかったドサイドン。手ぬぐいはドサイドンの頭部に巻き付いた。

東方不敗はそのまま手ぬぐいを思いっきり引っ張った。ドサイドンの巨体が宙に浮いた。

「ゴドっ!?!」

ボスゴドラは勢いを止められず、飛んできたドサイドンに諸刃の頭突きを決めてしまった。ドサイドンは吹き飛ばされた。

一瞬何が起こったかわからないボスゴドラに、東方不敗が懷に潜り込んだ。

「どこを見ておる!」

東方不敗の裏拳が炸裂した。ボスゴドラが痙攣したかのように身体が震え、暫くしてからドスウン……!と倒れた。

倒れたボスゴドラとドサイドンには目もくれず、上から飛び掛かってくるチャーレムとニョロボンを手ぬぐいではたき落とし、下から潜り込んでくるグラエナやフローゼルを蹴り飛ばす。

「戦いとは詭道なり。策なく己が勢いのまま敵と戦うは、敗れる兆しなり」

転がってくるゴローシャをいなした東方不敗は、ふと滝の上で影を見つけた。

ルカリオが滝の上から東方不敗を見下ろしていた。

「ほう…あやつか。よかろう、受けて立ってやる！」

ルカリオは片手にエネルギーを溜めこんで、滝から東方不敗に向かって跳躍した。波動弾の構えだ。

東方不敗も拳に力を込めて、構えた。両者は一斉に技を放った。

「キユオオオオオオ！」

「石破・天驚拳！」

ルカリオの放った丸いエネルギーと東方不敗が放った巨大な手の平の形をしたエネルギーが同時にぶつかりあった。

しかしぶつかった瞬間、東方不敗の天驚拳にルカリオの波動弾が一瞬で呑みこまれ、消滅した。

「！？」

ルカリオが驚く暇もなく、天驚拳はルカリオごと呑みこみ、そのまま滝にぶつかる。崖には巨大な手の平の後が残った。

空が夕焼けで赤く染まり始めた頃――

「流派・東方不敗は！」

「流派・東方不敗は!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

「王者の風よ！」

「王者の風よ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

「全身・系烈！」

「全身・系烈!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

「天破侠乱！」

「天破侠乱!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

「見よ！」

「見よ！ 東方は、赤く燃えている！」

「見よ！ 東方は、赤く燃えている!!!!!!!!!!!!!!」

一人の人間と多くのポケモン達の魂の叫びが、ギアナ高原の夕焼けを轟かせた。

（後書き）

ポカブが進化しても空を飛べない……だと……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0432u/>

秘境・ギアナ高原

2011年10月7日23時38分発行